

吹田市(環境政策室)

一般社団法人コミュニケーションデザイン機構
(きんき環境館(近畿環境パートナーシップオフィス)運営団体)

一般社団法人環境情報科学センター

本事業は、以下の3つの項目により構成されます。

- 1 高齢者とその関係主体に対する取組・効果検証
 - 1) 温度計を活用した“気づき”による行動促進
 - 2) 高齢者支援団体の声かけによる行動促進
- 2 熱中症リスクの評価
- 3 プラットフォームの運営

今後の取組へ反映

2 熱中症リスクの評価

市内気温調査: 市内小学校等の計30か所
(5か所に黒球温度計)

熱中症搬送者データ分析: 2014~2022年
(重症度に留意)



熱中症リスクの高い場所・時間帯の把握

KPI(日最高暑さ指数(WBGT)別人口10万人あたりの熱中症救急搬送者数)を評価

1 高齢者とその関係主体に対する取組・効果検証

熱中症リスクを自分事化し、リスク低減の行動を促します

1) 温度計を活用した“気づき”による行動促進

温度計を用いて定量的な気づきを与えることによる行動変化を把握

- ① 50名~100名程度の高齢者を市報などにより募集(5~6月)
- ② 1回目アンケートの送付・回収(7月~8月)
⇒ 日常行動の把握
- ③ 温度計及び2回目アンケートの送付・回収(8月)
⇒ 行動変容の把握
- ④ アンケートの結果分析、調査協力者へフィードバック(9月~10月)



2) 高齢者支援団体の声かけによる行動促進

高齢者に直に接する方へ啓発を行い、間接的に啓発を実施

廃棄物減量等推進員、市立公益活動支援センター
を通じた介護予防体操、傾聴サークル、認知症カフェ等の活動団体への参加協力を依頼



3 プラットフォームの運営

・これまでに構築した「高齢者」「教育機関」「運動施設」の関係主体による3つのプラットフォームで引き続き熱中症対策を推進。

・熱中症予防の効果的な方策としてのプラットフォームづくりのポイントを、本市の経験を元にとりまとめる。

